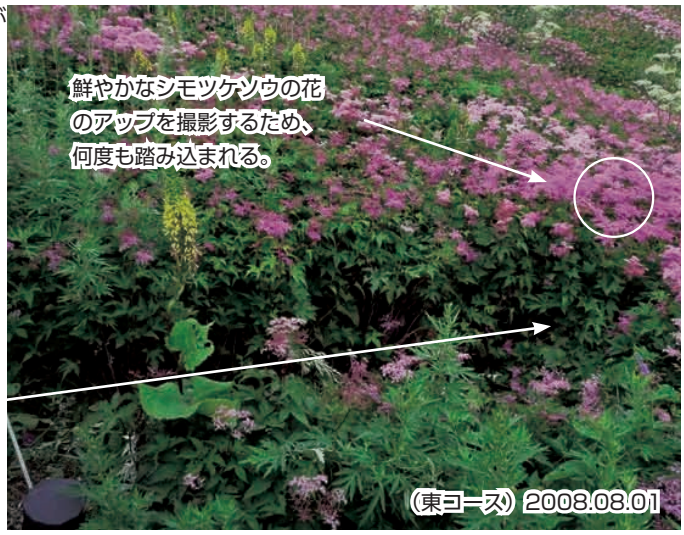
植物群落への直接的な被害要因

■花畑への踏み込み

最も踏み込みが多いのは、花畑がカラフルな色に染まる夏期シーズン。そのほとんどは、マクロレンズを手にして撮影する人である。中でも、早咲きのキンバイソウ、トリカブトが見られる場所は毎年同じように繰り返し踏み込まれる。また、東のシモツケソウ群落の中で特に鮮やかな花をつける場所も同様である。

右写真のように注意札をつけていても結果は同じで、シーズン中のパトロール強化が望まれる。



■食害・虫害・病害

伊吹山草原群落の食害の対象となる主な野生動物は、イノシシ、シカ、カモシカであるが、最近になって山頂部での喰み跡やヌタ場が目立つようになってきた。しかし、今のところ人に危害を加えるということもなく、草原内の貴重な植物に大きな影響をもたらすこともなく獣害としては、捉え難い。その他、今夏（2008）目立ったのが、フクラスズメの幼虫の大発生によるアカソ群落への広い範囲での喰み跡。ミヤマイボタの虫害。うどん粉病と思われるイワアカバナとタムラソウの病害。原因不明だがクガイソウの枯死など、あちこちに見られた。

▲ オオバギボウシの喰み跡はあちこちで見られた

▲ 九月末，テバコワラビの喰み跡

▲ イノシシのヌタ場は、花畑奥で多く見られる

▲ 西コースでは、アカソ等を食草とするフクラスズメの幼虫が大発生した。

8月下旬になると写真のように，アカソは、かなり広い範囲で茎を除き、葉のみが喰い尽くされていた。この現象は、珍しくはないらしいが今後の生態系にどのような影響をもたらすか観察したい。

▲ 枯れたクガイソウとうどんこ粉病と思われる葉が白くなったイワアカバナがあちこちに見られた。